

G20エネルギー大臣会合 鷲尾副大臣挨拶  
(2020年9月27日 ウェブ会議)

アブドルアジーズ・サウジアラビア・エネルギー大臣、各国・国際機関代表、御列席の皆様、

日本の外務副大臣の鷲尾英一郎です。食料安全保障とともにエネルギー安全保障の確立に取り組んで来た私が、外務副大臣として本日発言の機会を得ますことを、大変喜ばしく思います。

またこの機会に、議長国サウジアラビアの強いリーダーシップに敬意を表します。

御列席の皆様、

本日は、三点お伝えしたいことがございます。一つ目は、エネルギー・アクセスについてです。

新型コロナウイルスの感染拡大は、エネルギー・アクセスの重要性を改めて我々に強く想起させました。例えば、ワクチン等や医薬品の保管、医療施設の運営のためにエネルギーの安定的な入手はなくてはならないものです。また、持続可能な開発と経済成長の実現に向けた、あらゆる取組を下支えする最も重要な柱の一つであります。

しかしながら、世界では今でも約8億人もの人々が、電力への満足なアクセスが得られていない状況であり、2030年までのユニバーサル・アクセスの実現への道のりは、依然として一層の努力が必要です。

御列席の皆様、

二つ目に、ユニバーサル・アクセスの実現に向けた日本の取組を紹介いたします。

エネルギーが利用できない人の殆どは開発途上国に集中していることから、日本は、開発途上国において、安全、安価で、持続可能なエネルギー

ギー・アクセスの実現を重視してきました。特に、未だ人口の7割がエネルギーへのアクセスを持たないサブサハラ・アフリカにおいては、日本が主導する<sup>ティカッド</sup>T I C A Dの枠組みを通じて、ケニアにおける地熱発電等の日本の技術を活かした協力を推進するなどの取組をしてきています。また、我が国が主導する太平洋・島サミットの枠組みも活かし、2017年から2022年の期間に、太平洋島嶼5カ国に対し、島嶼型ハイブリッド発電システムを普及すべく支援しています。

今後とも、各国の事情に応じて、あらゆるエネルギー源や技術を組み合わせる視点を持ちながら、エネルギーへのユニバーサル・アクセスの実現に向けた取組を加速化させて参ります。

最後に、我が国は、本会合で議論している「循環炭素経済」の概念を11月のサミットにおいても非常に重要な考え方として支持いたします。

ご清聴ありがとうございました。

(了)